

広報ふえふき Fuefuki

令和4年度 決算特集号

令和4年度決算が市議会第3回定例会で
認定されました。
一般会計の決算を中心に、
笛吹市の決算概要を紹介します。



Contents(内容)

02 市の基金(預貯金)と市債(借入金)

03 財政健全化判断比率等

04~07 決算の概要

08 令和4年度の主な事業

財政の健全度を判断する指標を公表します。

財政健全化判断比率とは、財政健全化法により算定・公表が義務付けられている、市町村の財政が健全かどうかを判断する指標です。主な指標としては、「実質赤字比率」「連結実質赤字比率」「実質公債費比率」「将来負担比率」の4つの指標があります。

指標	算定結果 ()内は前年度数値	早期健全化 基準	比率の説明
実質赤字比率	— (—)	一般会計は黒字となっていますので、算出されません。	12.52%
連結実質赤字比率	— (—)	全ての会計において黒字となっていますので、算出されません。	17.52%
実質公債費比率	7.5% (8.2%)	一般会計の元利償還金の減少に伴い、前年度から1.7ポイント減少しました。	25.0%
将来負担比率	— (5.5%)	将来負担額から充当可能財源等を引いた「将来負担すべき実質的な債務」は、数値がマイナスとなることから、将来負担比率は算出されませんでした。	350.0%

指標の推移

実質公債費比率及び将来負担比率は、両指標とも前年度より減少しました。特に将来負担比率については、合併特例債や臨時財政対策債の償還が進んだことにより、指標は算出されませんでした。各指標とも早期健全化基準を大きく下回っているため、健全な財政状態が維持されていることが判断できます。

各会計の決算状況

会計名	収入済額	支出済額
一般会計	435億5,700万円	405億5,700万円
特別会計	収入済額	支出済額
国民健康保険特別会計	84億5,102万円	78億821万円
介護保険特別会計	71億5,261万円	65億6,985万円
介護サービス特別会計	1,274万円	1,274万円
後期高齢者医療特別会計	17億2,454万円	17億817万円
農業集落排水特別会計	8,034万円	4,625万円
境川観光交流センター特別会計	7,561万円	5,991万円
森林経営管理特別会計	2,667万円	678万円
恩賜県有財産保護財産区管理会(9特別会計合計)	6,857万円	295万円
特別会計合計	175億9,210万円	162億1,486万円

企業会計	区分	決算額
水道事業会計	収益勘定	収入 17億8,833万円
		支出 17億5,171万円
	資本勘定	収入 3億3,748万円
		支出 8億8,962万円
春日居地区温泉給湯事業会計	収益勘定	収入 9,033万円
		支出 8,181万円
	資本勘定	収入 —
		支出 —
公共下水道事業会計	収益勘定	収入 19億2,834万円
		支出 17億6,531万円
	資本勘定	収入 10億1,728万円
		支出 16億7,348万円
簡易水道事業会計	収益勘定	収入 2,558万円
		支出 2,170万円
	資本勘定	収入 951万円
		支出 1,903万円

資本勘定収入が支出に不足する額は、補てん財源等で措置しました。
 収益勘定…各事業を運営していくための施設の維持管理や人件費等の会計
 資本勘定…資本を形成するための工事や大型備品等の更新のための会計

令和4年度 決算概要

令和4年度決算が、市議会第3回定例会で審議され、認定されました。ここでは、市民の皆様へ納めていただいた税金がどのように使われ、また、市の財政が今どのような状況にあるのかをお知らせします。

市の財政状況について

基金は31億6,170万円増、市債は122億1,383万円減

限られた財源の中、徹底した事務事業の見直しによる経費の削減や、国及び県の補助金並びに有利な交付税措置のある市債の活用など財源確保の努力を徹底したことで、市の財政状況はさらに健全な状態にあります。

基金残高

基金(預貯金)については、ふるさと納税寄附金額の増加などに伴い、平成28年度決算では164億9,786万円だったものが、**31億6,170万円増額**させることができ、令和4年度決算では**196億5,956万円**となりました。

市債残高

市債(借入金)については、必要な公共施設及びインフラ整備を行うときに発行しますが、事業の優先度を見極め積極的に国や県の補助金などを活用し取り組んだことで、市債の発行抑制が図られ、平成28年度決算では690億195万円だったものが、**122億1,383万円減少**させることができ、令和4年度決算では**567億8,812万円**となりました。

一般会計 基金(預貯金)現在高の状況

基金名	令和4年度末	令和3年度末	増減額
財政調整基金	37億3,042万円	37億2,960万円	82万円
特定目的基金			
減債基金	17億9,607万円	17億9,575万円	32万円
公共施設整備等基金	30億9,554万円	35億1,483万円	△4億1,929万円
地域振興基金	49億5,688万円	49億5,688万円	0万円
まちづくり基金	39億2,770万円	37億99万円	2億2,671万円
その他	21億5,295万円	21億6,618万円	△1,323万円
基金現在高	196億5,956万円	198億6,423万円	△2億467万円

基金とは、家計で言うと預貯金のことです。財政調整基金は、年度間の財源の不均衡を調整するとともに、予期しない収入の減少や支出の増加に備えるための基金です。特定目的基金は、特定の目的に使用するため資金を積み立て、必要に応じて取り崩しを行う基金です。令和4年度は、39億155万円を積み立て、41億622万円の取り崩しを行ったことから2億467万円減少し、現在高は196億5,956万円となりました。

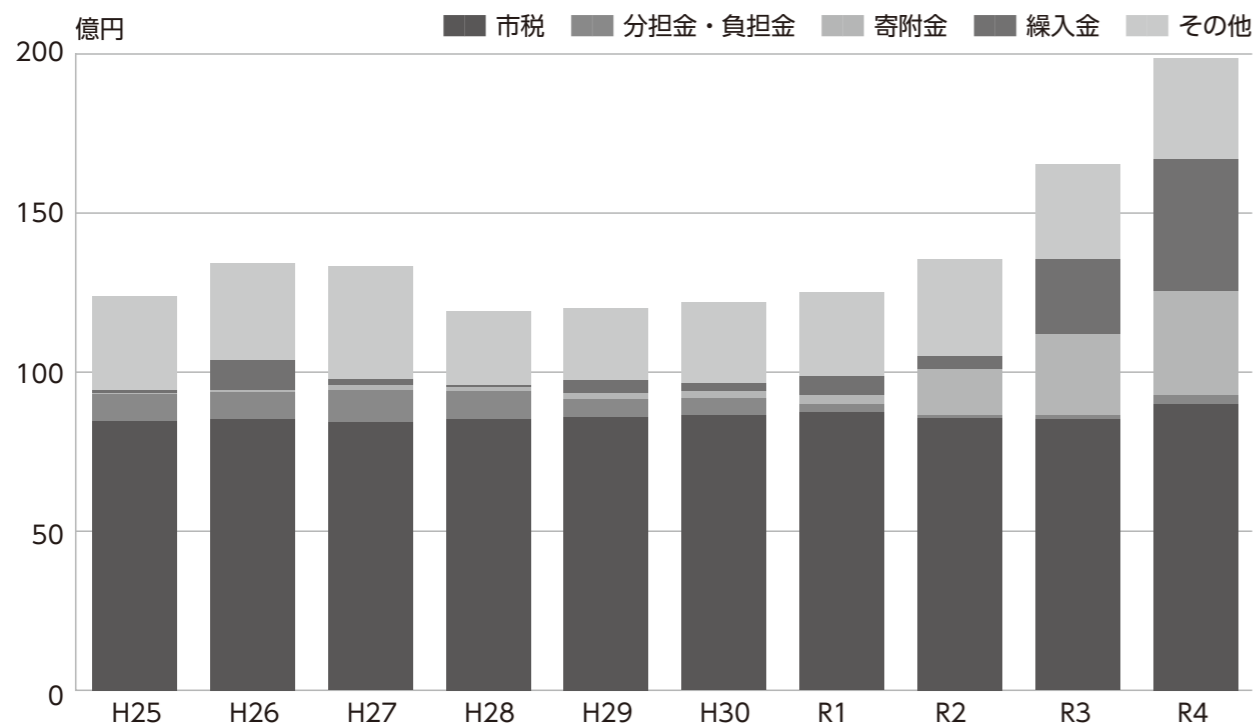
市全体 市債(借入金)現在高の状況

会計名	令和4年度末	令和3年度末	増減額
一般会計	383億9,680万円	399億4,794万円	△15億5,114万円
うち合併特例債	170億2,275万円	183億8,353万円	△13億6,078万円
うち臨時財政対策債	134億3,197万円	145億4,842万円	△11億1,645万円
公営企業会計等	183億9,132万円	197億4,270万円	△13億5,138万円
上水道・簡易水道	72億1,030万円	75億4,066万円	△3億3,036万円
下水道	110億4,289万円	120億3,794万円	△9億9,505万円
農業集落排水	1億3,813万円	1億6,410万円	2,597万円
市債現在高合計	567億8,812万円	596億9,064万円	△29億252万円
臨時財政対策債を除く市債現在高合計	433億5,615万円	451億4,222万円	△17億8,607万円

市債には、公共施設およびインフラの整備に当たって、資金の借入をすることにより、後年度の償還を通じて将来その施設などを利用する人にも、建設の費用を公平に負担していただくという、世代間の負担の公平性を保つ役割があります。令和4年度の現在高は567億8,812万円で、昨年に引き続き減少しました。

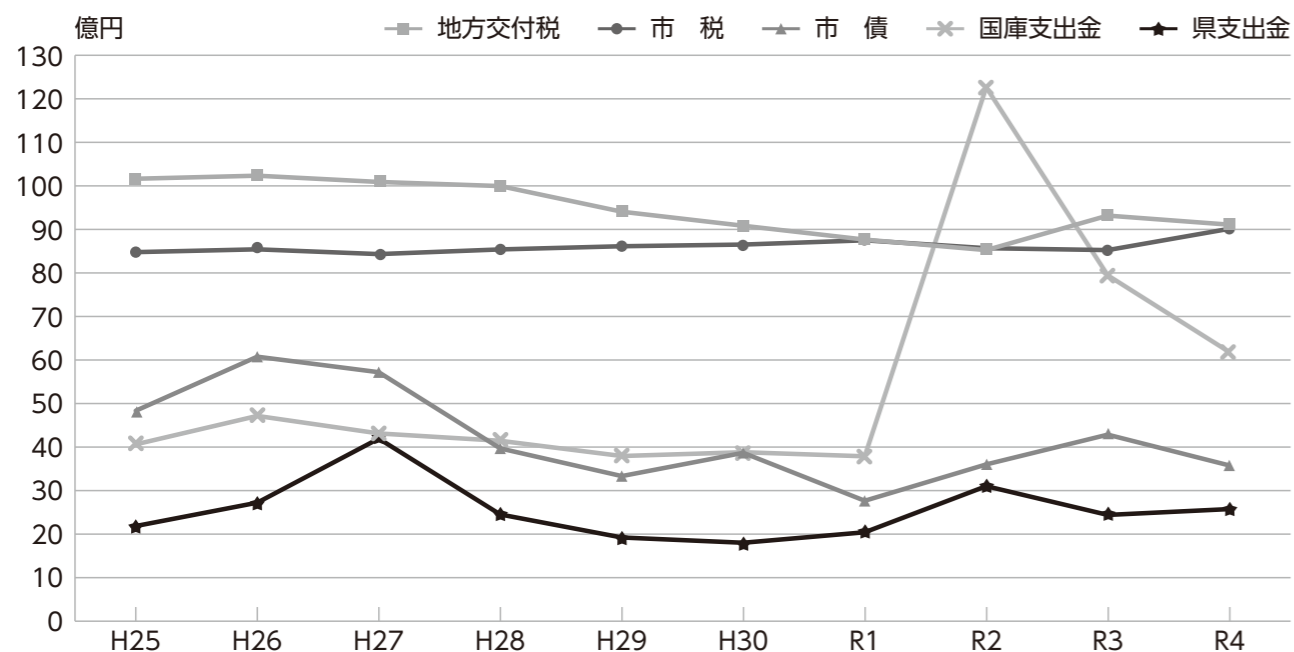
一般会計 自主財源の推移

自主財源は、198億5,500万円となり、前年度より33億2,200万円増加しました。主な要因は、ふるさと納税寄附金が6億8,400万円増加したことや、また、事業費の増加に伴い基金からの繰入金が18億3,700万円増加したためです。



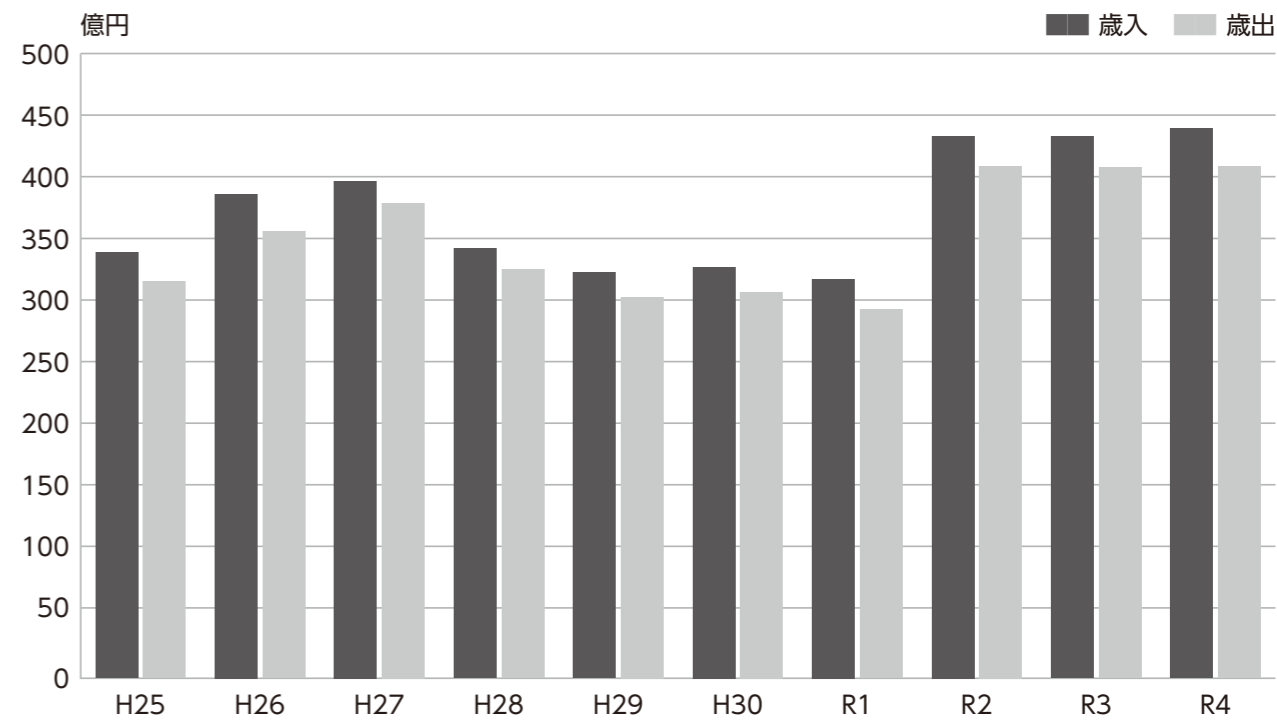
一般会計 主な歳入科目決算額の推移

自主財源の根幹である市税については、新型コロナウイルス感染症の影響があったものの国等の経済対策の実施により景気回復が見られたことから4億8,900万円増加しました。また、地方交付税については、自主財源の増加により普通交付税が1億8,800万円、特別交付税が2,000万円減少しました。国庫支出金については、17億6,000万円減少しました。これは、物価高騰による子育て世帯や低所得世帯に対する各種交付金や新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金が減少したためです。

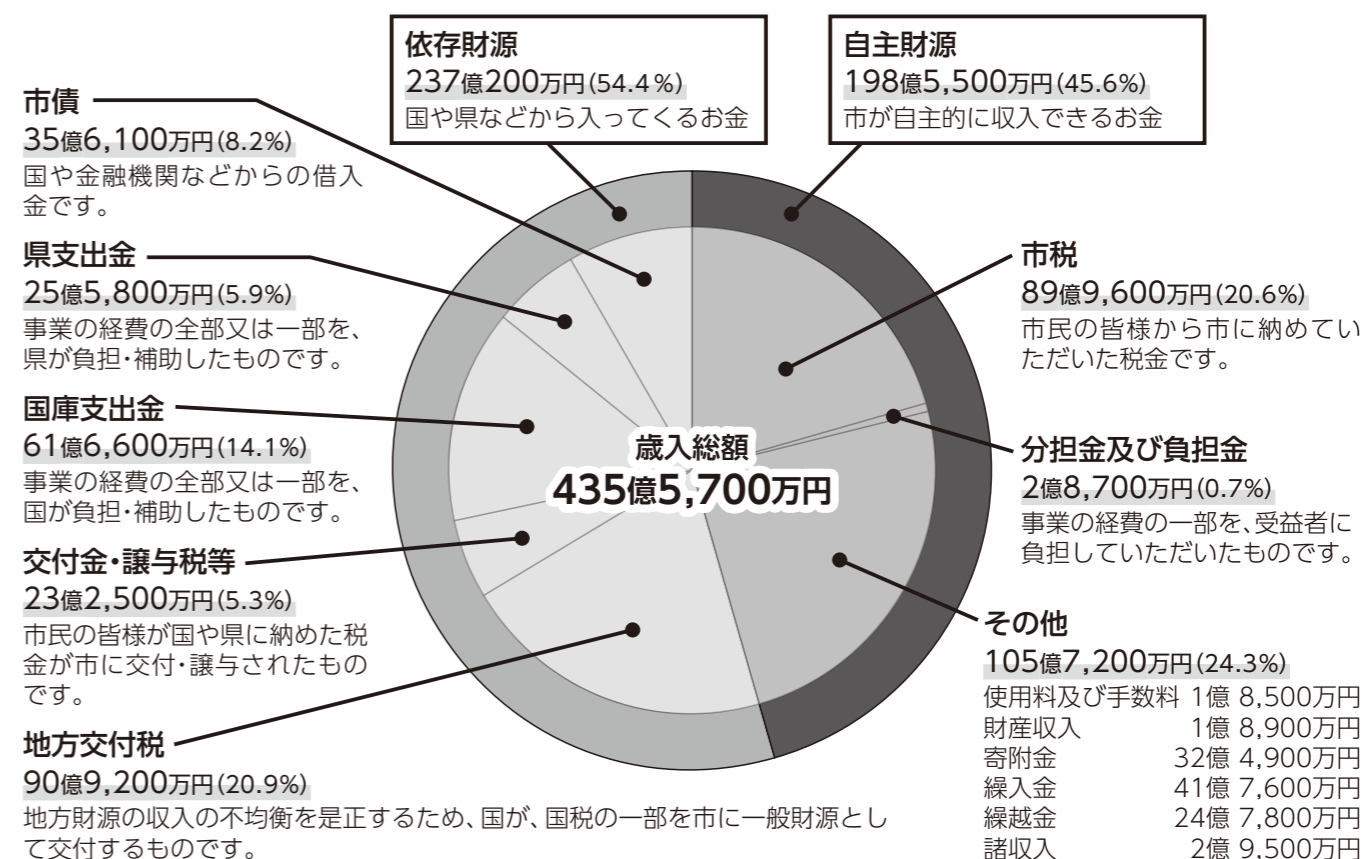


一般会計 歳入・歳出の決算規模

令和4年度一般会計決算は、歳入総額が435億5,700万円、歳出総額が405億5,700万円でした。歳入から歳出を引いた形式収支は、30億円となっています。形式収支から、繰越財源12億1,000万円を差し引いた実質収支は、17億9,000万円の黒字となりました。



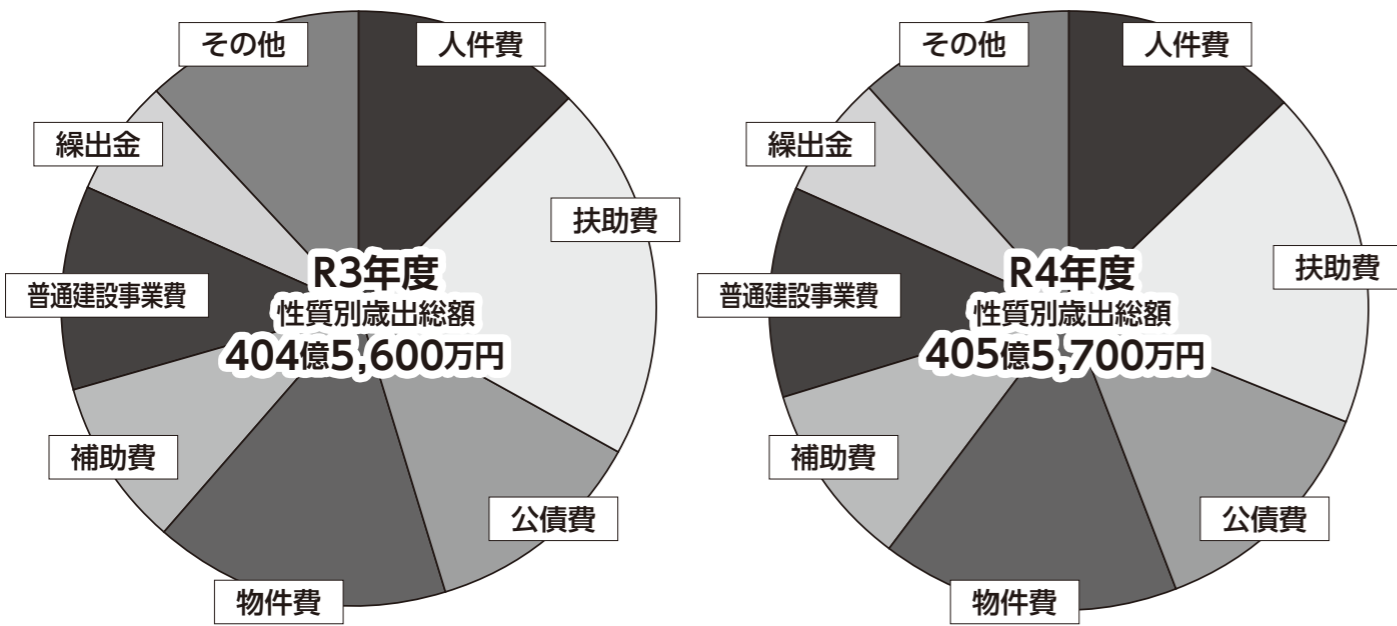
一般会計 歳入の内容



一般会計 歳出の内容(性質別)

性質別歳出とは、経費の経済的性質に着目した歳出の分類で、年度別の比較や他の自治体との比較、分析によく用いられます。

ここでは、令和3年度決算と対比してみました。



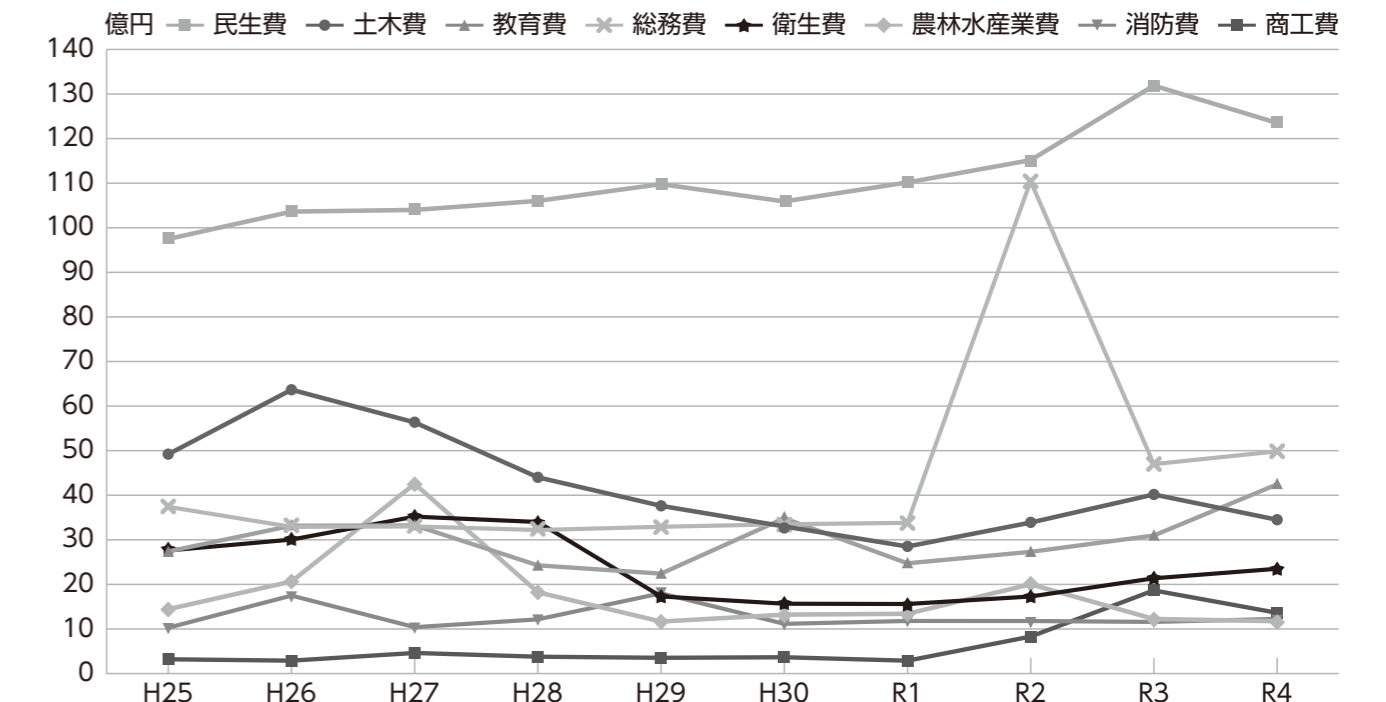
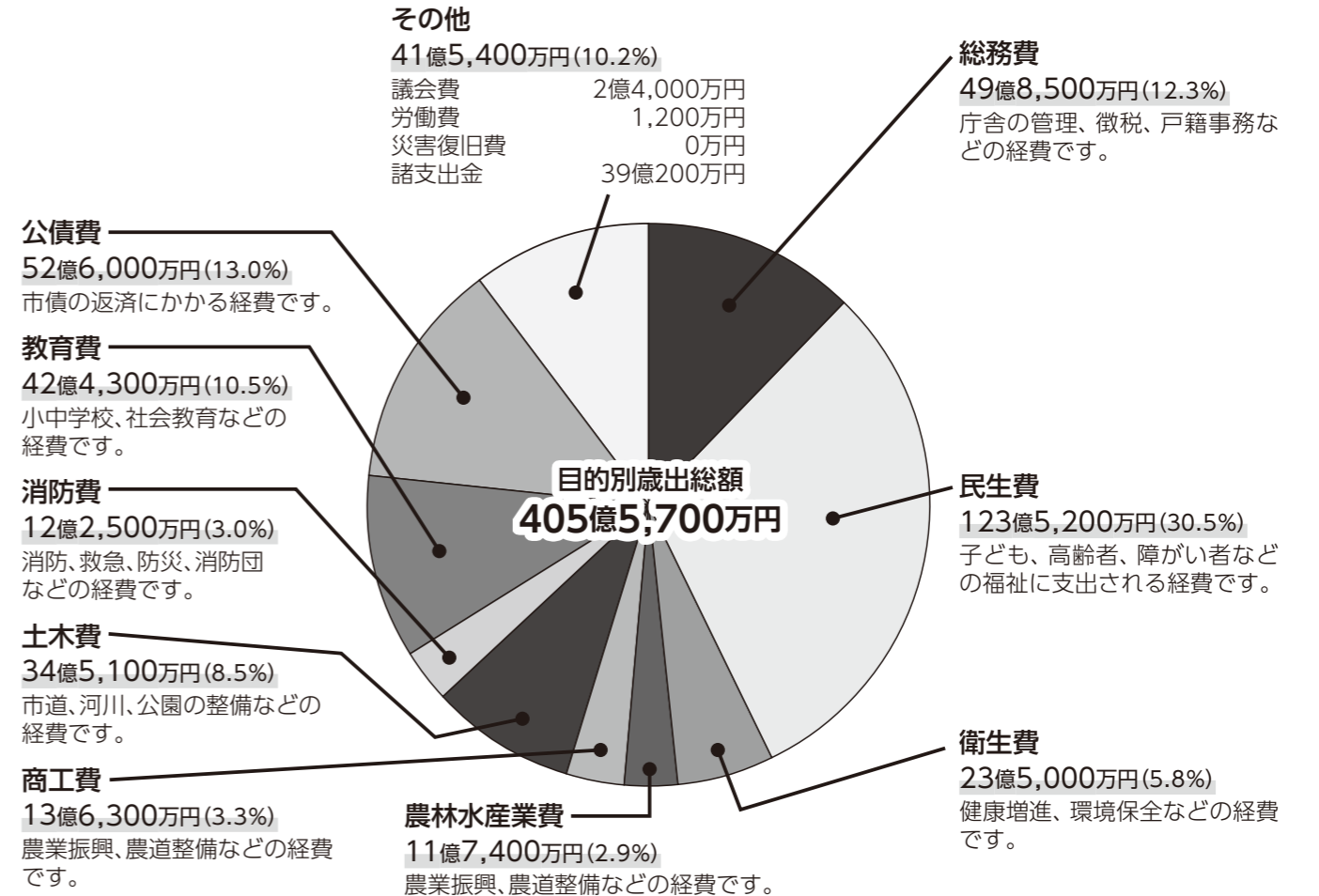
R3年度	決算額	構成比
人件費	51億4,300万円	12.7%
扶助費	82億9,600万円	20.5%
公債費	49億1,200万円	12.1%
物件費	65億9,900万円	16.3%
補助費	36億9,600万円	9.1%
普通建設事業費	44億7,100万円	11.1%
繰出金	26億3,400万円	6.5%
その他	47億500万円	11.7%
(維持補修費)	1億8,100万円	0.4%
(災害復旧費)	0万円	0.0%
(積立金)	39億3,200万円	9.8%
(出資金)	5億9,200万円	1.5%
計	404億5,600万円	100%

R4年度	決算額	構成比
人件費	52億7,300万円	13.0%
扶助費	73億8,200万円	18.2%
公債費	52億6,000万円	13.0%
物件費	66億300万円	16.3%
補助費	40億円	9.9%
普通建設事業費	46億8,000万円	11.5%
繰出金	26億6,800万円	6.6%
その他	46億9,100万円	11.5%
(維持補修費)	1億4,300万円	0.3%
(災害復旧費)	0万円	0.0%
(積立金)	39億100万円	9.6%
(出資金)	6億4,700万円	1.6%
計	405億5,700万円	100%

- 人件費……………職員等の給与、諸手当等の経費です。人事院勧告に伴う期末手当引き上げ等により1億3,000万円増加しました。
- 扶助費……………子ども、高齢者、障がい者などの生活を維持するための社会保障的な経費です。物価高騰対策による子育て世帯や低所得世帯に対する各種給付金が減少したことにより、9億1,400万円減少しました。
- 公債費……………市債の返済にかかる経費です。借換債の増加等により3億4,800万円増加しました。
- 物件費……………消耗品費、光熱水費等の消費的な経費です。ふるさと納税事業の増額により微増しました。
- 補助費……………各種団体等への補助金や負担金の経費です。新型コロナウイルス感染症予防接種事業及び出産・子育て応援交付金事業等により3億400万円増加しました。
- 普通建設事業費…公共施設、インフラの整備にかかる経費です。浅川中学校校舎等改修事業等により2億900万円増加しました。
- 繰出金……………一般会計から特別会計に繰り出す経費です。
- その他……………維持補修費、災害復旧費、積立金、出資金等です。積立金はふるさと納税寄附金が6億8,400万円増加したことにより、まちづくり基金積立金が増加しましたが、減債基金積立金等が減少したため、3,100万円減少しました。

一般会計 歳出の内容(目的別)

歳出を目的別にみると、最も高額となったのは民生費123億5,200万円で、昨年度より8億3,700万円減少しました。主な要因は、物価高騰による低所得者対策として実施した、電力・ガス・食料品等価格高騰緊急支援給付金給付事業が3億3,000万円増加しましたが、令和3年度子育て世帯への臨時特別給付金給付事業が10億3,300万円減少したためです。また、次に金額が大きかった公債費は、借換債の3億2,500万円の増加等により、昨年度より3億4,800万円の増額となりました。



令和4年度実施事業

令和4年度にも多くの事業を実施しました。主な事業の内容について、一部を写真で紹介いたします。

ハートフルタウン笛吹！商品券事業【第2弾】 7億2,543万円

新型コロナウイルス感染症の影響を受ける市民、市内事業所に対し、家庭での生活基盤の維持と地域経済の下支えとなる施策を実施しました。生活基盤支援と地域経済支援を目的に、令和3年度に引き続き1人当たり10,000円の商品券を交付しました。



市立保育所完全給食化事業 369万円

子育て世帯の負担軽減を図るため、市立保育所に通う3歳以上児が持参をしていた主食についても副食と合わせて提供を行いました。



笛吹みんなの広場及びさくら温泉通り 賑わい創出事業 2,273万円

さくら温泉通りの延長950m、桜並木174本に55万球のLEDイルミネーションを装飾しました。また、さくら温泉通りを周遊するスイーツマラソンを開催し新たな賑わいを創出しました。



御坂路さくら公園内ふれあい広場改修工事 4,429万円

地形や自然環境を活用し、より魅力的な公園となるよう一部を12区画のオートキャンプ場として整備し誘客を図りました。



浅川中学校校舎等改修事業 13億1,472万円

快適な教育環境を確保するため、老朽化が進んでいた浅川中学校の長寿命化改修工事を実施し、令和5年3月に完成しました。

